

2007年度 第1回特許セミナー

## 「特許のリスクとベネフィットを考える」

開催日：2007年10月27日(土) 14:00～17:10

会場：青山学院大学 相模原キャンパス O棟102教室

会場案内図は青山学院大学 web サイトをご覧ください。

お車でのご来場はお断りします。

主催：青山学院大学総合研究所自然科学研究部

共賛：青山学院大学理工学部

参加希望者は下記までご連絡お願いいたします。当日参加も歓迎いたします。

お問い合わせ先：青山学院大学 相模原事務局 研究支援ユニット

TEL：042-759-6056 (ダイヤルイン)

E-mail：sawabe@ee.aoyama.ac.jp

### <プログラム>

14:00～

開会挨拶

理工学部電気電子工学科 教授 澤邊 厚仁

14:05～

「研究開発の落とし穴—特許マップから見たフラットパネル技術の競争力—」

SBIインテクトラ株式会社 コンサルティング部長 川崎 昌義

特許は個々独立した権利である。しかし、同時に、特定の技術範囲を持ち、互いに連携し技術クラスターを形成する。それに基づいて特許マップを描くソフトが実用化し、数分間で800万件の特許情報を解析できるようになった。日、米、韓国のフラットパネル技術のリスクと価値を解析した事例を紹介する。

15:05～

「国際標準となる特許とは—標準という視点から見た研究開発のあり方—」

マイクロソフト株式会社 技術最高顧問 田中 芳夫

技術開発にとって標準という課題は重要である。先端的研究や萌芽的研究の領域とは無縁のように思われるが、単発的特許、必須特許、基本特許という類型化の中において、標

準化の中に供される特許群が増える現在、特に、国際標準化は避けて通れないものとなっている。実務における諸課題を説明する。

16 : 05～

「知財パッケージをいかに作るか—特許、論文、秘密、データの上手な管理方法—」

青山学院大学法学部・大学院法学研究科ビジネス法務専攻教授

学校法人青山学院知的資産連携機構担当 菊池 純一

知財パッケージという考え方は、研究開発に従事する者として知っておくべき基本概念である。また、そのパッケージが作り出す知財アウトカムという考え方も同様である。研究開発の成果のリスクとベネフィットは、それを稼動可能な状態で組み合わせ、一定期間にわたって運用することから生じる。そして、それらの多くの由来は、研究開発の初期段階に存在している。

17 : 05～

閉会挨拶

理工学部電気電子工学科 教授 澤邊 厚仁